

図書館だより

'84. 11

3つの課題

山崎 治子（被服学）

目 次	
3つの課題	
山崎 治子……1	
ぶらうじんぐる〜む	
ある夏の日	
相川 和泉	
林 千絵……2	
資料紹介………3	
図書館をあなたのものに	
文庫本をめぐって…4〜9	
海外記	
Cambridgeにて	
関 憲治…10〜11	
卒業しても図書館にどうぞ/ NEWS ……12	

今年もあと残り少なくなりました。かねてより懸案となっている婦人問題の中から次の3点を取りあげて話題にしたいと思います。

国連は国際婦人年（1975）に続く1976年から1985年までの10年間を平等・発展・平和を目標として「国連婦人の十年」を宣言し、世界各国に共通する婦人に対する差別撤廃を推進するよう呼びかけました。各国の政府には採るべき行動計画を掲げ、勧告しています。来年の世界会議の際には「婦人に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」に批准するか否かについて日本は態度を決定しなければなりません。

1) 問題になっていた国籍法は、国際結婚で生れた子供の日本国籍取得に関して、父親が日本人であれば何等問題はなく、母親が日本人の場合に「父が知れないとき（私生児）または父が無国籍の場合だけしか日本国籍をあたえない」という父系血統優先主義でした。しかし5月18日に国籍法・戸籍法改正案が可決成立し、男女平等の父母両系血統主義が採用されたのです。父母のいずれかが日本人であれば日本国籍を認め、また戸籍法は日本人が外国姓を名づけることにも道を拓いたわけで、まことに喜ばしい改正でした。

2) 次に高校では家庭科を女子にのみ必修を課しており、このことは「男は仕事・女は家庭」という役割分担意識の反映、伝統的固定概念の定着ということで問題にされています。高校教育で家庭生活に関する教育が必要なことは言うまでもありません。文

部省は6月以来、家庭科教育課程の検討にはいり、年内をメドに基本線をまとめるそうですから、見通しは明るいといえましょう。条約を批准するためには「教育における差別待遇」は御法度ですし「定型化された概念の撤廃」についても国連の勧告にのっとり検討し、世論にこたえる時期にきていると思います。

3) 3番目に雇用問題があります。日本の労働基準法は、性別による差別禁止の項を設けて

いないので、募集・採用・俸給・教育訓練・配置昇進・福利厚生・退職・定年・解雇などに、男女に差別がつけられています。差別を解消するためには立法措置が必要であります。しかし7月25日の国会で「雇用平等法」は不成立で、決着は次期国会に持ち越されました。

以上今後の課題としては、来年の「差別撤廃条約」の批准に向けて間に合うように進展・解決するようにと願わずにはられません。

ぶらうじんぐる〜む

ある夏の日

相川 和泉

林 千絵

(文学部国文学科4年)

ある夏の日午後のこと、ふと目をあげてみると青い鳥が一羽、昼寝をしていた。なんとこの鳥さん、岩波の古典大系のみもさめるばかりに白い上質紙に身をすり寄せたままじっとしている。こちらの視線を感じても、ピッピッと威張っておられる。

紙の比熱は高い。気温が上がっても紙の温度にはさほど変化がない云々とは本学の某教授の言であった。

などと考えている間も、別段怯える風もなく逃げる素振りも見せない。そこでこの生意気な鳥の首をむんずとつかまえたところ、鳥めは横目でこう言った。

"あんさん気持ちよさそうに居眠りしてましたさかい、ついワイもつられてしまいました。まあまあそないに目を三角にせんでも……悪気はなかつたんですさかいに。

ところであんさん、そのヨダレなんとなかりませんか？本の上にもついたりしますよ。あんさんホンに女の子のくせしてダラシないですな。その本、よそから借りてきたもんですやろ？他人様の本、そない乱暴

にしやはって……。よくもまあこんなに勝手に書き込んだりして……ほらここ、ページも抜けとるやないですか。"

およそ身のまわりの犬猫の類はもちろん、電柱の鳥にも注意しなくてはならない。彼らは女子大生に人間並みの関心をもって24時間中監視し続けているのだから。

漱石の『三四郎』には明治の東大図書館が描かれているが、三四郎はどんな本でも誰か一度は借りていることを知って驚く場面がある。それは本のここかしこに見える鉛筆書きのあとから明白で、なかには本の見返しいっぱい自説を書き込む豪傑!?もいる。女子大とはいえ、我校の図書館でも本への書き込みはよく目にするのである。最近では私物と錯覚してページごと破りとられる例も少なくないとのこと。カビの生えた良心にムチを打たねばならない時期だろうか？



資料紹介

『新技法シリーズ』

美術出版社

「だれでもその本性では芸術家であり、天才なのです。ただこびりついた垢におおわれて、本来のおのれ自身の姿を見失っているだけなのです」これは画家であり彫刻家の岡本太郎氏が著書『今日の芸術』の中で述べている一節です。

今日私たちは多くのすばらしい音楽、絵画、彫刻などに囲まれて暮していますが、芸術など自分には全く無縁のもの、と思い込んでいる人々も少なくありません。しかし、一寸自分自身をみつめ直して見て下さい。絵を描くのは苦手だが写真を撮るのは巧いとか、木版画にのみ興味があるとか、友人達に手づくりのカードを贈りたい、などというような思いは誰しも持っていますね。「芸術」という言葉に圧倒されて自身の心に潜む小さな創造の芽を刈り取ってしまっていないでしょうか。ものを創り出す喜びを感じたいとは思いませんか。

そんな時の参考になるのがこの新技法シリーズです。ジャンルは、絵画一般、洋画(技術篇、制作篇)、日本画(技術篇、制作篇)、版画、書道、彫刻、工芸、写真、映像、デザイン、イラスト、趣味、その他のおよそ15に分類されています。そして各項目を一冊一冊に分け、制作のプロセスや作例を豊富なカラー図版やモノクロ図版で紹介しながら、それぞれの技法がマスターできるように編集された実用的な入門書です。勿論、ある程度創作経験のある人にとっては、指導手引書としても活用できるようになっています。

このシリーズは従来の技法書にはみられない新しい分野の技法を取り上げるなど、多方面にわたる読者の関心を捉えるよう企画されていますし、各巻の執筆者はそれぞれの分野に深い造詣を持ち、活発に創作活動に打ち込んでいる人々を厳選しているという点もみのがせません。

内容面でも、ただ単に技法のみにとどまらず、起源、歴史的背景や、自らの体験にもとづく創作活動全般に通ずる心がまえを説く著者もあり、それらを読むだけでも実に興味深いものです。

この中のごく一部をご紹介します。

③ やきものをつくる 河村嘉太郎著 ⑥7 草木染・糸染の基本 山崎青樹著 ⑦3 佐賀錦入門 依藤照著 などは日本に古くからある伝統手工芸を初心者にもわかりやすく解説していますし、⑩ ポリマー・ペインティング ラッセル・ウッドィ著 重田良一訳 や ⑩1 エアブラシ・イラストレーション 山下秀男著 は最新のテクニックを紹介しています。

⑭ 風一空の造形 広井力著 ②0 切り紙 藤井増蔵著 ③7 靴をつくる 鈴木玲子著 などは単に実技を指導するばかりでなく見るだけでも楽しい構成になっています。

⑮ 工業デザインプログラム 石川弘著 や ⑤5 アイデアのエレメント 福田繁雄著 ⑧4 フィニッシュワーク 斎藤日出男著 ⑩4 広告レイアウト 宮崎健著 などはこれから創作活動にたずさわる人にとって恰好のヒントが得られるでしょう。

⑧ シルクスクリーン 植田理邦著 ⑮6 七宝焼 長谷川淑子著 ⑮7 ステンドグラスのパネル技法 スティーブ・メロー著 などは、趣味の幅をもっと広げてくれることでしょう。

⑤8 グリーティングカードをつくる 美術出版社編 ⑥3 布でつくる人形 浜いさを著 ⑮24 木工一合板の手作り家具 高木圭一著 などで手づくりの楽しさを味わってみませんか。

現在55冊しか揃っていませんが、今後全巻を購入する予定です。さああなたも興味のある一冊を開いてみましょう。(注:□の数字は、シリーズ番号、■は所蔵分)

図書館をあなたのものに

—— 文庫本をめぐる ——



はじめに

閲覧室に入って、ブック・ディテクションのゲートを抜け、すぐ左にまがると、新書・文庫・新聞コーナーがあります。みなさんにはコピー室といった方が分かりやすいかもしれません。毎年2度の試験期には喧噪を極めるこの部屋の壁に、数台の書架が置かれ、各種の文庫本や新書が並べられています。街の本屋さんのその棚のような派手な印象もないし、図書館の蔵書の一部にすぎないのですから、それだけをあげつらってみても別にどうということはありません。しかし、軽薄短小の時代を象徴するものひとつとして、まさに泥鰌の様相を呈するそれら小形本につき、一応のご案内を試みるのも一興ではあるまいかとの発想のもとに、今回の企画がたてられました。人と同じように本にもその歴史や個性や数々のエピソードがあります。新書や文庫も中身は一人前の本ですから、それなりにいろいろ話のタネを持っています。スペースの都合上、新書は今回割愛し、文庫本について、ほんのサワリをその上つまみ食いする程度で何とももどかしくはありますが、御意にそいましたら幸甚です。

1. 文庫本とは

今日、文庫本については、各分野の名著古典の普及や既刊本の廉価版を旨とした軽装小形本で、多くは〇〇文庫の名称を持ち、終期を定めない叢書形式の出版物、という定義がその関係の事典などで行なわれています。しかし、字義明らかなどおり、文庫とはもともと出版物につけられた名称ではありませんから、外形内容にかかわらず、どんな書物に文庫と名付けようがもちろん一切おかまいありません。軽装といっ

ても、戦前では改造文庫が丸背クロス装で出発しましたし、昭和40年旺文社文庫は箱入りで、別に箱入りクロス装の特製版まで用意してお目見えしたものでした。また、大きさの点では、JIS規格による紙の大きさでいうとA6判(縦148mm×横105mm)が普通ですが、新潮文庫はそれよりほんのちょっぴり大きめ(151mm×106mm)です。富山房百科文庫はいわゆる新書判、白水社の文庫クセジュは新書版よりさらにひとまわり大きく、逆に、集英社文庫のコバルトシリーズや、文庫とは名のついていませんが、保育社のカラーブックスはA6判よりひとまわり小さいといった具合です。従って、定義など多様な出版形態の前では有って無きがごとくして、その変遷に応じて柔軟に考えていかなければなりません。

2. 文庫本登場

さて、それでは文庫本なるものが、いつ頃どのようにして登場したのか、ルーツ探しの段となります。文庫という文字を書名中に使用したものや、文庫本程度の大きさの書物となれば、いずれも江戸時代にその例が見られますが、これらは通常文庫本の前史としてさえ考えられていません。1867年といえますから明治維新の1年前、海の向こうはドイツで古典的な名著を取めた小形の叢書が刊行されました。これが有名なレクラム文庫で、現在も東西に分かれたドイツでそれぞれに発行されています。レクラム文庫がいつの頃から日本に入ってきたのか、洋書輸入の老舗丸善の記録を調べても確かどころは不明のようですが、日露戦争前後にはかなり出まわっていたと伝えられています。このレクラムのスタイルと刊行方針をまねて(ただし、内容は比すべくもない)明治時代の後期に数種

類の文庫が刊行されました。そのひとつである袖珍文庫の刊行の辞には、レクラムなどに範をとったとちゃんと書いてあります。このあたりが、本邦文庫本の黎明期です。つまり、単に小形軽装廉価だけではなく、名著古典の普及を謳う高邁な出版理念、これなくしては文庫本の正統たることおぼつかないのです。

3. 第1次ブーム

初期の文庫はいずれも短命に終わり、昭和2年7月、文庫本の本命と自他ともに許す岩波文庫が登場しました。ご存知のとおり、岩波文庫は半世紀の余を経た現在も刊行を継続中で、この世界では西のレクラムと並び称されるものです。大正末、昭和初期という時代は関東大震災、第1次世界大戦後の世界的な経済不況、当然統廃する労働争議、そして政府によるさまざまな社会的思想的弾圧などなど、暗い谷間の一時期でした。出版界ももちろん不況たることを免れえず、その中で改造社が開闢策として1冊1円の『現代日本文学全集』の刊行を開始しました。大正15年(昭和元年)12月のことで、これが予約部数35万部という空前の活況を呈し、他の出版社も遅れじと類似の企画を出し、それらも相当な売れゆきを示して、ここに円本ブームといわれる状況が現出しました。岩波書店はいろいろの事情からそのブームに便乗できず、かといって拱手傍観するわけにも行かず、対抗策として急きょ案出されたのが岩波文庫なのです。ですから、同文庫の巻末にある「読書子に寄す」

という発刊の辞に述べているような周到な準備などある筈もなく、ただ急ぎに急いで突っ走ったのが実情です。ついでながらこの「読書子に寄す」、文案は三木清で高遠な意図を述べ、それに店主岩波茂雄が商売仇の円本商法を罵倒する文言をつけ加えていて、まことにおもしろい読みものとなっています。

ともあれ、日本のレクラムたらんとして岩波文庫は出発し、幸い読者に好評をもって迎えられました。これが当たるとなると、2匹目のドジョウを狙う出版社が現われない筈はなく、1年おいた昭和4年早々に改造文庫が創刊されたのを初めとして、数年のうちに20種近い文庫が統統登場してきました。これを第1次文庫ブームと呼んでいます。この時期の代表的な文庫は岩波、改造、春陽堂、新潮の4者で、それぞれ質量ともに見るべき点があります。昭和10年代も半ばになると、戦時体制下各種の制限統制が設けられた中に書籍用紙も入り、また内容面での検閲もきびしく、出版活動全体が低調なものとなっていき、文庫本も例外ではありませんでした。こうして戦前が終わります。

この第1次ブームは円本という大型セット販売への反発がきっかけでしたが、レクラムにならった良書普及の意図が一般にうけたものといえるでしょう。学齡児童(小学校)の就学率が90%をこえたのが明治35年、大正9年には99%をこえて、以後現在までそれを維持し、受皿としての読者層の形成が充分であったことも、要因として見のがせないでしょう。

文庫アラカルト

ページ数・多いもの

1冊ものでは講談社学術文庫に1,000ページをこえるものが数点ある。その中で1番の厚冊は『経済辞典』1,536ページ。価格は2,400円でこれでも文庫本かと疑いたくなる。分冊ものでは何といっても中里介山『大菩薩峠』全27冊(角川文庫)で、合計8,210ページとなる。しかし、講談社学術文庫から刊行中の

徳富蘇峰『近世日本国民史』、総冊数は不明だが、元版で全100巻だから、もし完結すれば、文句なしに最高となろう。

ページ数・少ないもの

竹内式部『中臣祓講義』(岩波文庫)が僅か62ページ。ただし、絵はがき文庫は除く。

4. 第2次ブーム

戦後まもなく、上質の紙が殆ど手に入らず、仙花紙と呼ばれた劣悪な再製紙で本が作られました。当時の岩波文庫もひどいもので、本文はもちろん仙花紙、表紙用に特別に作らせていた紙もその頃は生産できず、白っぽいザラ紙のような表紙でした。それでも活字に本に文化に飢えた人たちが、発売を持って行列して買い求めたという話を聞きます。昭和22年からぼつぼつ戦前の文庫の再刊や新顔の文庫が出始めます。そして、用紙統制の撤廃を待ちかねたように、昭和25年角川文庫を含めて3種、翌26年6種の文庫が発刊され、最盛期には40種をこえる文庫が店頭を飾りました。第2次文庫ブームと称される時期です。

この時期の代表的なものは岩波、新潮、角川の3文庫ですが、他にもアテネ文庫、三笠文庫、創元文庫、市民文庫、近代文庫、世界古典文庫などなど、なかなか捨てがたいものが多くありました。ブームの半ばからは現在のようなカラージャケットも考案され、まさに文庫の棚は百花繚乱の感がありました。従って淘汰も激しく昭和30年を境にブームははっきり下降線をたどります。先にあげた岩波、新潮、角川の3文庫はこの波をのりこえ、次のブームまでの間定着した活動を続け、そのため文庫ご三家といわれたこともありました。

第2のブームは敗戦後の何もかも無い状況の下、文庫という出版形態が出版社、読者の双方から好まれたと考えられます。生活が安定し、

出版事情も好転すると、一般の需要は見ばえのない文庫本を離れて行ったという経過がそれを証明しています。アテネ文庫の刊行の辞にあった「最低の生活にも最高の精神」という一節が、当時の文庫出版を象徴しているようです。

5. 第3次ブーム

第3次ブームは昭和46年7月の講談社文庫創刊に始まります。以後、昭和48年6月中公文庫、49年6月文春文庫、52年4月集英社文庫、55年6月河出文庫と、大手出版社が続々と文庫を出し、現在もなおブームの中にあります。何しろ多いときは毎月200～300点ほどの新刊文庫本が発行されるのですからすさまじい限りで、加熱する一方の状況に、最近では文庫戦争という言葉さえ耳にします。

今回の第3次ブームはこれまでのブームとはかなり異質のものです。情報源と価値の多様化は必然的に書物への依存度を低下させ、かつ教養の空洞化ないし死滅は、特に若年層に活字離れといわれる状況をひきおこしています。出版界も対応に苦しんでいて、文庫の出版動向を見ると、名著古典中心だったものが多様化の一途をたどり、ちょっとしたベストセラーは数カ月で文庫になりますし、写真集、漫画、絵はがきなど視覚にうったえるものから、はては文庫判の雑誌まである有様です。不況下の出版界全体からすれば異常ともうつるこの派手な文庫の現象は、読者の需要もさることながら、出版社個々の企業防衛意識の表われとも見ることができます。つまり、自社でかかえている売れ筋の著

文庫アラカルト

書名・短いもの

なんとカタカナ1字の本がある。谷川俊太郎『べ』（講談社文庫）がそれ。漢字1字ということなら三浦哲郎『野』、丹羽文雄『鮎』、モーム『雨』、ゴーキー『母』その他があるが、画数の少ないのは長塚節『土』（岩波文庫など）である。

書名・長いもの

ゴーゴリ『イーワン・イワノキッチとイーワン・ニキーフォロキッチとが喧嘩をした話』（岩波文庫）が他を大きくひき離して35字。

者や作品を他社の文庫にとられないように、自社でも文庫を作っておこうとか、一般的な書籍定価の上昇によって鈍る購買力を、安価な文庫本の多売でしのごうとするのが、それです。こうなると文庫本として見るよりは、単にペーパーバックととらえた方が適切かもしれません。ですから、名著古典を揃え、ベストセラーよりロングセラーを狙う文庫のイメージは、もはや懐古趣味に近く、手をかえ品をかえ売れるものだけ作っていかうとする出版社の姿勢があらわで、この限りでは現在の状況は簡単におさまりそうにありません。

6. 読む側、選ぶ側の視点

当節はブランド志向とやら、飽ひとつ洋服1着買うにもたいへんな騒ぎです。でも、本を買う時、あなたはどれほどの注意と努力をしていますか。行きつけの本屋さん、なじみの店員さんがありますか。本なんて著者や書名を見て買えば、どの出版社のどの版であろうと、どこの本屋へ行こうと同じこと、と思っているとしたら、あなた、それは間違っています。なぜなのか。本だって商品です。製作する側の主義主張や意図とその実現の方法、それを販売する書店の品揃えと店員の商品知識、といったものが重要なポイントとなるところは他の商品と何ら変わりはありません。また、読者の側にも選ぶ眼がなければならぬことは言うまでもないでしょう。このことを文庫本について考えてみましょう。

例えば、シェイクスピアの訳本ですが、現在文庫本では新潮、岩波、旺文社、角川、講談社の5社から、18作品に対し合計38点出しています。多いのは「ロミオとジュリエット」と「ハムレット」で4種類ずつあります。日本古典文学では「徒然草」「伊勢物語」がそれぞれ5種類、日本近代文学では漱石の「吾輩は猫である」と「坊っちゃん」が6種類ずつもあります。

これらの中からあなたはどれを選びますか。翻訳ものは訳者によって大きな違いのあること

はご承知のとおりです。図書館ではシェイクスピアはできるだけ多くとり揃えていますので、じっくり読みくらべて、お気に入りのものを選んでください。訳者が同じでも部分的に手を入れたり、全面的に改訳している場合もままありますので、解説や奥付などによって確かめるとよいでしょう。特に古書店で買う際には注意が必要です。岩波文庫は戦前から継続しているだけに、いろいろな事情による改版が実に多いのですが、解説も含めて内容に手をつけていないかどうか、よく見てください。翻訳ものに限りませんが、実物に当たってみると改版というよりは改訂改訳に近いものが散見されます。

日本古典文学も同様です。戦前と戦後では新資料の出現に伴う本文校訂のやり直しや、研究水準の向上による注釈解説のレベルアップなどの影響が、当然文庫本にも及んでいます。岩波文庫をみるとそれがはっきりしていて、戦前初版のものは殆ど版を改めています。「徒然草」の西尾実校注は昭和8年初版のままですが、その例言第1行にあった「徒然草には異本と称すべきものは無い」との断言は、僅か3年後の一異本出現によって破られ、昭和13年にはそれをうけて改版、さらに昭和40年その後の状況から再度版を改めて今日に至っています。また、松尾芭蕉「奥の細道」は初めが昭和2年伊藤松宇校訂、次いで昭和32年杉浦正一郎校注、そして現行の萩原恭男校注は昭和54年からのものです。講談社学術文庫からは、日本古典文学の全訳注が続々と出ていますが、訳注者は学界の中堅どころが多く、意欲的な作となっているものも少なくないようです。図書館ではこの全訳注シリーズの殆どを購入しています。また、近来の名

文庫アラカルト

発行点数の多い著者

常に文壇長者番付の上位をしめる松本清張（今年は2位、首位は大学生に人気の赤川次郎）が、新潮、角川、講談社、文春、中公の5文庫あわせて延べ150点、ダブリを除いても130点と断然トップ。

著としては講談社文庫の中西進訳注『万葉集』全4冊(別冊万葉集便覧は未刊)があります。この本は最近菊判1,534pハードカバーの机上愛蔵版が出版されましたが、通常とは逆の文庫本先行という珍しいケースです。

さて、明治は遠くなりけりの句ではありませんが、いわゆる旧漢字旧かなづかいが、我々にはもう遠い世界のもの、すんなりとは読めないものとなっています。普及を旨とする文庫本では昭和30年代の半ばから、近代文学の現代表記への切りかえが進み、現在ではあの鵜外もたいて苦勞せずに読めるようになっていきます。しかし、結構なことと喜べるかという、問題がないわけではありません。日本語の表記法を思い起こせばすぐ分かることで、常用漢字の、現代かなづかいのと騒いでみても、つきつめれば共通の理解も規範性もあるわけではありません。各社文庫の「坊っちゃん」でも試みに比べてごらん下さい。その現代表記のあり方のなんと違うこと。耳で聞く分にはともかく、字づらを見ているとこれがあの、と疑いたくなる箇所もあります。場合によっては表記だけではなく、読点を含めて表現までいじっている例もあるの

文庫アラカルト

刊行期間の長いもの(岩波文庫のみ)

完結したものでは、ヴェルテール『ルイ十四世の世紀』丸山熊雄訳全4冊が昭和33年から同58年までで25年かかっている。訳者交代でもよければ、フェーヴル『大地と人類の進化』上(飯塚浩二訳)、下(田辺裕訳)が昭和16年から同47年で31年間、セルバンテス『ドン・キホーテ』正統計6冊に昭和23年から同52年まで29年かかっている。

未完のものでは、『水滸伝』が昭和22年から同58年まで36年で全13冊のうち11冊を刊行した。これは訳者が代っている。ホプス『リヴァイアサン』は昭和29年から同57年の28年間で全4冊のうち3冊まで出した。

です。つまり、各社独自の現代表記法を採用している結果がそうさせているのです。致し方ない仕儀とはいえ、読者の方で翻訳ものと同様の意識で読まなければ、とんでもない思いあやまりをひきおこさないとも限りません。新潮文庫の巻末には表記法についての方針が印刷されています。その他の文庫でも、現代表記に変えた場合は必ずどこかに表示しています。くれぐれも注意したいものです。

7. 解説などのこと

図書館では、キリスト教系の作家、女流作家、北海道文学関係、英米文学その他、単行本や全集が既に所蔵されていても、文庫本が出た場合はそれも購入している例がたくさんあります。これは携帯の便という利用者の都合よりは、むしろ文庫本のテキストとしての優秀性と解説などの付録が、利用者の皆さんのお役にたつことを考慮した結果です。著者によっては初出雑誌、単行本、文庫本、著作集と移る度ごとに手を入れる場合もあり、異同を確認する際、変遷の一段階として文庫本も見のがせません。もっと重要なのは解説などの付録で、同作品であればこれによってどの文庫本をとるか決まる場合もあります。いつの頃からそうになったか、まだ調べていませんが、現在では解説めいた文章のない文庫本は例外に属するでしょう。あらずもがなの解説もある半面、中には本文より解説が立派というものもあります。ペルクソン『笑』(岩波文庫)の林達夫の解説は夙に名高いものです。注も含めれば、ラブレールの例のガルガンチュワとパンタグリユエル(岩波文庫)、あの渡辺一夫の仕事は微に入り細を穿って、まさに絶品といえましょう。何しろ全5冊の各冊3割から半分ほどが訳注・解説なのです。もっともあのびっしりと詰まった細字を読むのは、相当にしんどい作業ではあります。旺文社文庫は付録の豊富さで知られています。解説の他に関連エッセイ、参考文献目録、年譜などがあって、出版社の性格から、普通の読書というよりは一種の受

験参考書を読まされている気分になることもあります。

8. 解説付目録

文庫の世界の道案内として、文庫別の解説付目録があります。よく書店の文庫の棚にぶらさがっているのがそれです。図書館でも若干置いています。昭和6年岩波文庫が出したのが多分最初で、戦前は岩波以外のものをまだ見ていませんが、戦後は有力文庫の殆どが出しています。この目録は発行時点での在庫書目1点ずつに、多いもので150字(岩波・角川)、少ないもので60字(中公)程度の解説を付したもので、著者索引、書名索引なども備わっていて、便利の上ないものです。解説は圧縮された表現の中に要をえたものが多く、昔から簡便な名著解題として人気があります。古今東西の典籍をこの目録によってマスターした(?)という豪傑の伝説もあるほど、この目録の愛読者がたくさんいますし、実際に目録を読む会が結成された例もあって、隠れたベストラリーダーとさえいわれます。そんな結構なもののが何と無料でもらえるのですから、発行のつど(実はこれがなかなか分らず逃すことも少なくない)丹念に集めて本棚を飾れば、それでミニライブラリーができればというものです。古い目録も捨ててはいけません。絶版品切書は新しい目録では削られますし、解説も書き改められる場合もあるので。ふとした折に気の向くままそれらのページを繰れば、あなたはたちどころに、めくるめく書物の世界周遊紀行に旅立ちとなるでしょう。蛇足ですが、もし岩波文庫の解説付目録が既刊分揃って出たなら、古書市場でちょっとした話題になること請け合いです。お父さんの本棚をひっくり返してみてもいいですか。

9. 総合目録

解説付目録は個々の文庫のもので、比較するにはたくさん集めなければなりません。各種文庫の収録書目を簡単に一覧できるものとして、『便利な文庫の総目録』(文庫の会、昭和43年より年刊)という、その名のとおりの便利な目録が出ています。1984年版は全部で43社の文庫を収録し、解説はありませんが、丁寧な索引が備わっていて、文庫の世界を訪ねるにはなくてはならない道具です。もちろん、図書館には用意してあります。

おわりに

毎度お騒がせのチリ紙交換。あそこに出される品物の中には、たくさん雑誌にまじってちゃんとした本も結構あるようです。真理のメタファーの地位を保ちえず、消耗品と墮した書物の姿、といたら大げさでしょうか。ことに、文庫本は読み捨て本なのかもしれません。それでも、読まれるだけよしとしましょうか。

この秋、光文社とPHPが、さらに10月末には三笠書房が戦列に加わって、ますます混迷の度を深める文庫合戦。しかし、見方によっては、だから今、文庫がおもしろいといえます。知の戦略地図をにらみながら、気軽に、自分だけの王国を構築できるチャンスです。国家体制は、新旧硬軟あなたの望むまま。もちろん、参謀本部は図書館がお引き受けします。いつでもご相談ください。

海 外 記

Cambridgeにて

関 憲 治 (英文学)

札幌では冬の気配が残っていたのに、ここCambridgeはもう新緑と陽光に包まれていた。Selwyn Collegeの前庭では桜が今を盛りと咲きほこり、桜の国からの客を歓迎してくれた。やさしく頬をうつ風までが「自分の与える喜びに、なかば気づいているよう」(序曲I.4)だった。Miltonが、Coleridgeが、Wordsworthが学んだこの学園都市に今自分がいることが不思議であり幸福であった。

ここは大学図書館6階。英文学・ヨーロッパ文学関係の紀要雑誌が書架を埋めつくし、さらに廊下をへだてた別室へ続いている。Oxford大学Bodleian図書館と並び、その蔵書数350万部(定期刊行物を除く)を誇る大図書館の一隅を今私は占めている。Wordsworth在世中の批評の移りを直接の資料から辿りたい意図からである。机上にあるのは、1802年発行のThe Edinburgh Review創刊号。時に詩人は32歳である。地球裏側の私が、181年前の本を手にし、若い詩人を想う図に、時間と空間のトリックの妙を思う。しかしインクの薄れ、にじみが初老の目にはつらい。時々窓外に目を安める。

Backsの木立ちの向うに十指にあまるcollegeが、それぞれの歴史を秘めて立ち並ぶ。正面にひととき美しくそびえるゴシック建築がKing's College Chapelである。過日の思い出がよみがえる。荘麗なステンドグラス、高い天井を美しく走る扇状模様、主祭壇を飾るRubensの『三賢人の礼拝』、精緻な彫刻をほどこした間仕切りと、その上の巨大なパイプオルガン。それだけで長旅の疲れをいやすには充分だった。ところが突然鳴り響いたパイプオルガンの調べ。パッパのトッカータとフーガだ。壁面に、天井にこだました絨織にも繊細な調べが全身に降り

そそぐ。興奮がつきぬける。Cambridgeで最初にうけた忘れぬ贈物である。

視界の左端はSt. John's College。興奮さめやらず目だけを異国の建造物に遊ばせて歩く。ふと目が捉えたのは、St. John's Collegeの文字。Wordsworthの出迎えをうけたような嬉しさと親しさがこみあげる。門をくぐると、時あたかも序曲の描写そのままに「学寮の厨房では蜜蜂の音楽にはおよばぬが、それにおとらぬ動勉さで、ざわめきをたてていた。」(Ⅲ.47-49)詩人によれば、その部屋は厨房真上の「うす暗い片隅」とある。私は詩人の姿を求めて二階の小窓に目を凝らした。

このように異国の街は温かく迎えてくれた。幸せだった。しかし反面不幸のどん底にもいた。私は聾啞者の世界に住んでいたのだ。英語学習40年のキャリアも、それをもって職業としている事実も英語国にあっては重荷にこそなれ、自信にはつながらなかった。ささいなことが私の全人格を崩した。例えば迷い猫が私の帰宅を迎えてくれた日のことだ。私は日英親善と動物愛護の精神から、「やあ、ニャン君今日は。はじめまして」と礼節の国からの代表らしく鄭重に声をかけた。くだんの三毛君はキョトンとしている。よせばいいのに「Come on, pussy.」と言ったら「Meow!」と英語で答えてついてきた。「猫まで英語だ!!!」この現象は必然か、はたまた偶然か、など考えるいとまもあらばこそ、私は劣等感の奈落におちていた。

6月中旬、実にさわやかな経験に恵まれた。中国政府派遣の大学・研究所勤務の医師5名のわが家来訪である。英語学校で研修後英米各地の大学・研究所での研究をされる先生方である。中国での英語解禁は文革後とのことで、全員英

語歴は数年程度とのこと。文字通り四十、五十の手習いで、寸暇を惜んでの猛勉強をさいての訪問であった。用いる言葉は英語である。数年程度のキャリアの人達相手では私として自信はあった。負け犬でも、さらに弱い犬には強いものらしい。私は得意であった。しかし中国の先生達は悪びれる様子もなく旧知の間柄のような親しさで途切れることなく話した。時々「その言い方今日教わったばかりでないの」と合の手が入ったり、「こんな言い方正しいですか、プロフェッサー」などと、無意識であろうが、私の自尊心まで充たしてくれた。家族のこと、国のことを熱っぽく語った。乏しい語いと構文ながらどんな能弁者にも劣らない説得力があった。この先生達こそ本当の英語を話していた。日中戦争時の残虐事を赦し、平和を讃美し、日中の親善を祈念し、堅く再会を約束して帰って行かれた。1年経った今も忘れられぬ鮮明さで、語られたのである。

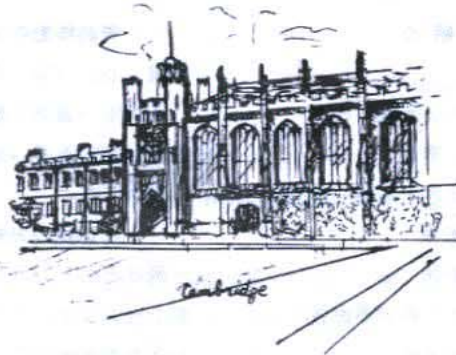
8月になると、私にも数人の英国の友人ができてきた。私は初対面のたびにおろかにも、自分は英語に対しては聾啞者であると自己紹介していた。その態度の裏には、英国人に対するおもねりがあった。40年の勉強にしてなおものにならぬ英語の難しさを納得してほしかったのだ。そして何よりも自己崩壊がこわかったのだ。私は中国の先生達が与えてくれた感動をもう忘れていたのだった。

英国の友人達は紳士らしく、英国人は外国語の勉強に怠惰であることを恥じている、と言って私を恥ずかしめない配慮を示してくれた。私はそれを当然のことと受け入れていた。

英国人の島国人的用心深さは、一旦その用心深さを解くと、たとえようのない温かさ、親密さに変わる。英国で外国人が不便、不満を感じるのは自分の不徳とばかりに面倒を見てくれる。

個人への好意は、その人の国への関心に及ぶ

らしい。恐らくは、今迄念頭になかったはずの Far East (彼地の地図で見ると実に適切な表現であることがわかる) の日本のことを次々に質問してくる。私は苦吟しながら単語を寄せ集め出来る限りの解答を試みる。少々(どこでないかもしれぬが)の間違いで理解してくれる。発言中は辛抱強く待ってくれる。この厚意こそ自己崩壊治療の最良薬だった。会話はある程度の技術と修練でできるのではないかとさえ思わせてくれた。そう思い始めると、別の意味で、これら新しい友人の質問に答えられないのが悲しくなった。私は聾啞者ではなく、語るべきものを持たない無知な人間だと知ったのだ。しかし、そこには少しの救いはある。それは書齋英語の専門分野でもあるわけだ。



の専門分野でもあるわけだ。

10月。授業開始。全身を耳にし、額に八の字しわをよせ、形相すさまじく教授の講義に聞き入る毎日。しかし、その道もまた安からず。突如おこる笑い声。真顔でいるは、われのみか。見回し見る

も気恥かしく、ただ、アゼン、ブゼン、カクゼン、ショーゼンのいくたびぞ。

苦行を重ねること数ヶ月、不思議な事実気付いて来た。この書齋英語にさえ English と聞こえる講義と All Greek なものがあるのだ。前者は多少の知識をもつ講義であり、後者は耳ならしと耳学問を目論んだ未知の分野の講義だ。書齋英語万歳。猫が英語で鳴いたとて恐れるな。無知をこそ恥ずべしだ。いかんせん帰国の日がせまっている。この堅いイスが名残り惜しい。Hill先生の美しい英詩講義にもっと酔っていたい。先生の授業が理解できるようになりたい。せめてあと2年滞英して。イスの上にも3年とか。

卒業しても図書館にどうぞ!

前館報19号でお知らせしましたように、今年度から卒業生も在校生同様館内利用だけでなく貸出を受けることができるようになりました。

全卒業生1万7千人のなかの幾人がこの幸せを享受できるかは別として、開学にともない図書室が設置されて以来の画期的な制度です。

昨年度までは、卒業していくみなさんに、来館利用は出来ますよ、としかいえませでしたが、今年度からは貸出も出来ますよ、ということが

できるのは本当に嬉しいことです。是非ご利用下さい。

ちなみに4月～9月までの貸出状況をお知らせしますと延68名の方が152冊の資料を利用されました。全体の数からみれば微々たるものですが、年毎の卒業生の願いを思うとき、みなさんの前に開かれた扉の意義は大きいのです。利用される方は心して再びこの扉が閉じられることのないよう基本的約束を守って下さい。

NEWS

受入雑誌紹介

新規継続誌

中央公論文芸特集 中央公論社 季刊
季刊三千里 三千里社 季刊
季刊としゃかん批評 せきた書房 季刊
ラ・メール 思潮社 季刊
日本学 名著刊行会 季刊
聖書ヘブライ語 キリスト教図書出版
新沖縄文学 沖縄タイムス社
啄木文庫 関西啄木懇話会

バックナンバー

文学評論 ナウカ社 復刻版
第三帝国 益進会 復刻版 不二出版
コギト コギト発行所 復刻版 臨川書店
日本人 政教社 復刻版 日本図書センター
社会学評論 日本社会学会 季刊
書物展望 書物展望社 復刻版 臨川書店
終末から 筑摩書房
The Mississippi Quarterly 復刻版

Mississippi State University

資料移動のお知らせ

和書(430～450)化学・天文・地質学等
243室→書庫1層へ
和書(600)産業→書庫1層洋書(290)の後へ

冬休みのお知らせ

例年どおり12月17日から1月14日まで休日開館となります。この間に年末年始の休館が2週間あり次のとおりです。

開館(9時30分～16時)

12月17日～12月22日

1月7日～1月14日

休館

12月24日～1月5日

長期貸出し

12月15日～1月14日までの貸出図書の返却は1月16日～23日とします。

一夜貸出し

12月22日 14時～1月7日 10時まで

